

日本「脱原発をめざす首長会議」の皆さま

福島第一原発の事故により、貴国の皆さまが受けた苦痛と悲しみに、心よりお見舞い申し上げます。

福島第一原発の事故は、私たちの心に大きな傷を与え、原子力発電の問題点に強力なメッセージを發しました。全世界のエネルギー政策にも強く影響を与え、これは世界各国の脱原発政策へと広がっています。

大韓民国でも環境団体・市民団体を中心に、持続的に脱原発宣言が行われています。地方自治体でも、原子力発電はもはや安くて安全なエネルギー源ではないという認識を共有する45の自治体が集いました。そして、去る2012年2月13日、原子力から脱却し再生可能エネルギー中心のエネルギー政策への転換を通して持続可能な都市建設をしようという都市宣言文を採択し、「脱核・自然エネルギー転換のための首長の会」を發足し、多様な事業を推進しています。

貴国でも福島第一原発事故後、原子力による発電にこれ以上頼らないことを決意したものと理解しております。しかし、福島第一原発の事故による痛みが癒されないまま、これをたった1年の間に翻し、大飯原発を再稼働させたことは、目先の利便性の為未来の安全を捨てる間違った選択であると思います。

私たちは、貴国の「脱原発をめざす首長会議」の原発再稼働反対運動に絶対的な支持と声援を送ると共に、「脱原発をめざす首長会議」と大韓民国の「脱核・自然エネルギー転換のための首長の会」が、原子力から脱却し、安全で次世代のための持続可能な世界づくりに共に協力し、邁進することを希望します。

2012年7月20日

韓国「脱核・自然エネルギー転換のための首長の会」